

## 地域活性化のための場のマネジメント ～直島の交流人口増加の事例研究～

1220479 杉本夏奈

指導教員 石谷康人

### 研究背景

現在、日本国内では人口減少や高齢化が進み、労働力人口の減少や、地域経済の縮小など多くの課題を抱えている。その課題に対して、政府では地方創生としてのまち・ひと・しごと創生のビジョンや戦略・方針が示され、人口減少の克服や将来にわたる成長力の確保などを目指そうとしている。課題を抱えている自治体でも、地域活性化の取組を積極的に行っているものの人口減少に歯止めがかからない事態となっている。

### 研究目的

過疎地域に対して、「地域活性化の取組」と「拠点づくり」をうまく噛み合わせることで人口が増加することが明らかにされている。そこで、拠点づくりにおいて場のマネジメントが有効であると考えた。その上で手法については明らかにされていないため、本論文で取り上げることで、人口増加させたい自治体にとって参考となる知見を提示することを目的とする。

### 調査・分析方法

場のマネジメントの考え方をを用いて、交流人口の増加に成功した「香川県香川郡直島町」の事例を記述やデータをもとに分析する。その際に、場のマネジメントのサイクルを構成している要素を分析単位として使う。

### 分析結果

直島では、三宅町長とベネッセによるプロジェクトがきっかけとなった。当初はベネッセハウスにアート作品を展示しただけであったが、その後直島の材料を使って、直島で作るようになり、直島らしいアートの完成形として住民が主体的にアーティストとして参加するようになった。その代表が家プロジェクトである。直島らしさのあるアートを住民自ら直接的・間接的に後押しするという心理的エネルギーの発生と、直島において島の経済を向上させるという共通理解の秩序として収斂された。これが、拠点づくりの土台となった。

### 考察・結論

過疎地域が、定住人口や交流人口を増加させるには、「地域活性化の取組」と「拠点づくり」をうまく噛み合わせる事が大切である。拠点づくりを成功させるには4つの活動ステップを網羅し、それに「場のマネジメント」が織り込まれていることが重要であることを示すことができた。なぜなら、場のマネジメントから共通理解と心理的エネルギーが発生することによって、拠点づくりを行う地域住民の行動が活性化し、活動が推進されるからである。